

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所
〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田) Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp



QRコード



205号
2024年7月26日発行



武力では平和は守れない！

「9条守れ！」の声をごいっしょに！

「9日・19日」スタンディングにご参加ください・・・

8月 9日（金）市役所前
19日（月）ケーズデンキ大平店前
両日とも午後4時～
（約30分間）



DVD視聴のご案内

戦後70年“平和国家”はこうして生まれた

NHKスペシャル（総合） 2017年4月30日放映より

9月11日(水)午後1時半～午後3時半

栃木市市民交流センター 4階 研修室②

憲法施行から77年。戦争放棄を定めた憲法9条の「平和主義」はどのようにして誕生したのでしょうか。1946年7月（S21）、うだるような暑さのなか「帝国憲法改正案特別小委員会」で審議が始まった……。小委員会議事録の極秘の文書が明らかに……。武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の道へと突き進もうとして今日、あらためて、憲法第9条の「平和の理念」について考えてみませんか。

NOWAR! NO NUKES!

いまこそ核兵器のない平和で公正な世界を
核兵器禁止条約に参加する日本を実現しよう



原水爆禁止国民平和大行進

一歩でも二歩でも歩こう なくそう!核兵器

5月から8月の被爆地
広島・長崎まで続けら
れています。
栃木市では7月10
日午後5時半から、核
兵器の禁止・廃絶に向
け、思いをつなぎ一歩
でも二歩でも歩こうと
市民が旗を掲げ行進し
ました。
（大森記）

今年で
67回目と
なる原水爆
禁止国民平
和大行進。
国民平和
大行進は、
1958年、西本あつしさん
がたった一人で「核武装阻止
と民主主義の擁護のために」
と、プラカードをかかげ、広
島から東京めざし歩き始めた
ことから始まりました。
「歩く」という誰もが参加
できる行動で原水爆禁止の願
いを示した行進は、市民の共
感を広げ、100万人の大行
進となりました。
被爆者の願いをあつめ、



沖縄戦の惨禍 再び起こさせぬ



沖縄戦から79年 全戦没者追悼式

太平洋戦争末期の沖縄戦から79年となる「慰霊の日」を迎えた6月23日、軍民混在となる地獄のような戦場で犠牲になった20万人を超える人々などを悔み、恒久平和を誓う沖縄全戦没者追悼式が、糸満市^{まぶに}摩文仁の平和公園で開かれました。

沖縄全戦没者追悼式で、「平和の詩」を朗読した沖縄県立宮古高校3年の仲間友佑さんの作品「これから」を一部割愛して掲載しました。

「平和の詩」朗読

沖縄県立宮古高校三年

仲間 友佑さん

「これから」

短い命を知ってか知らずか
蝉（セミ）が懸命に鳴いている
冬を知らない叫びの中で
僕はまた天を仰いだ

あの日から七十九年の月日が
流れたという

今年十八になった僕の
祖父母も戦後生まれだ
それだけの時が流れたというのに

あの日
短い命を知るはずもなく
少年少女たちは

誰かが始めた争いで
大きな未来とともに散って逝った

大切な人は突然
誰かが始めた争いで

夏の初めにいなくなつた
泣く我が子を殺すしかなかった
一家で死ぬしかなかった

誰かが始めた争いで

常緑の島は色を失くした

誰のための誰の戦争なのだろう
会いたい、帰りたい
話したい、笑いたい
そういくら繰り返そうと

誰かが始めた争いが
そのすべてを奪い去る

心に落ちた
暗い暗い闇はあの戦争の副作用だ
かすかな光さえも届かぬような

絶望すらもないような
怒りも嘆きも失くしてしまひそうな
深い深い奥底で

懸命に生きてくれた人々が
今日を創った

今日を繋（つな）ぎ留めた
両親の命も 僕の命も 友の命も
大切な君の命も すべて

心に落ちた
あの戦争の副作用は

人々の口を固く閉ざした
まるで 戦争が悪いことだと
言っではいけないのだと

口止めするように
思い出したくもないほどの

あの悲劇がそうさせた

僕は再び天を仰いだ

抜けるような青空を飛行機が横切る
僕にとってあれば
恐れおののくものでない
僕らは雨のように打ちつける
爆弾の怖さも

戦争の「せ」の字も知らない
けれど、常緑の平和を知っている

あの日も 海は青く
同じように太陽が照りつけていた
そういう普遍の中にただ

平和が欠けることの怖さを
僕は知っている

人は過ちを繰り返すから
時は無情にも流れていくから
今日まで人々は

恒久の平和を祈り続けた
小さな島で起きた

あまりにも大きすぎる悲しみを
手を繋（つな）ぐように
受け継いできた

—省略—

今年もこの六月二十三日を
平和のために生きている

その素晴らしさを
噛（か）みしめながら

